

糖尿病・内分泌・代謝内科

1. 診療科としての特色

現代の内科は専門領域が臓器別に細分化されている一方、全身を診る能力も求められています。当診療科では全身の臓器を総合的に評価し患者の病態を把握するとともに、それぞれの患者にあった治療を行っています。

糖尿病や高血圧症に代表される「生活習慣病」は無自覚のまま全身の動脈硬化を引き起こすため予防と指導が重要です。また、全身の様々な臓器間を連携する「ホルモン」はダイナミックかつ繊細なバランスがとられていて、その機構が破綻すると生活の質や命にかかわる異常を引き起こすことがあります。

当診療科では論理的な診断に基づき、かつ患者毎の背景を考慮した診療が行えるような医師の育成を目指しています。

2. 研修目標

- Common disease としての内分泌代謝疾患の管理法を学び、将来どの科に進んでも必要な知識の習得を目標とする
- 糖尿病の管理(周術期血糖管理、ステロイド糖尿病、妊娠糖尿病など)、インスリン調整
- ガイドラインに基づく高血圧症、脂質異常症、高尿酸血症の管理
- 電解質異常の管理
- 下垂体・甲状腺・副甲状腺・副腎・膵内分泌疾患などの希少な内分泌疾患の診断と治療
- 内分泌・代謝疾患が全身にもたらす多彩な病態の総合的評価と全人的治療の実践

